

相模屋政五郎

原作並脚色者
監督者 摄影者

相模屋政五郎
女房お照

「相撲屋政五郎」

帝キ木芦園唐澤氏作品

不芦屋時代映畫



一相撲屋政五郎

帝キネ芦屋潤澤氏作品

し、却つて彼の爲に命を落した。然し俠兒相政も時代の生んだ伊達衆であつた彼は敵乍らも與五郎の死を悼み懇に葬つた男々しも優しき相政の行ひに人々は賞讃の言葉を惜しまなかつた。

乾分	千太	同仙吉	中村	嵐璃	仙三郎氏	山城若氏
同芳兵衛						
吉藏						
仙臺屋與五郎						
家臣廣瀬源工門						
乾分	武平	小關佐文治	阪川井	延竹	笑絵氏	昇氏
食食門	重助		東良之	慶氏	助氏	
羅生門			田幾三郎氏			
松平士佐守			田童四郎氏			
茶屋の女			尾松二郎氏			
解説	「怪龍丸」	について唐澤弘光氏が監督製	二葉菊子譲			
作した時代劇である。						
略筋	伊達で生きる一世の侠客相模屋政り耶					
	は父宰吉右工門が仙臺屋安五郎の爲に理不繩張りを					
	奪害を受けた事から、及び五郎が彼の繩張りを					
	取せんとした事から、流石温厚な彼も遂に仙					
	臺屋を糾弾すべく單身敵の本懸に乗り込んで男					
	性的意氣を揚げた。然しつは羅生門重助の扱に					
	依つて事なきを得たが、此事あつて以來政五郎					
	の名聲は巷間に宣傳された。其頃高知二十四五万					
	石の領主松平士佐守は政五郎の名聲を聞き富む					
	招致して同家の元徳たらんと聲が、義に富む					
	彼は仙臺屋の立場を考慮して飽までそれを察し					
	た。興五郎は彼を曲解し闘途を擁して撃たんと					

解説――怪龍丸について澤澤弘光氏が監督製
作了した時代劇――「伊達で生きる一世の侠客相模屋政り耶
略筋」は、伊達で生きる一世の侠客相模屋政り耶
は父寧吉と石工門が仙臺屋安五郎の爲に理不盡な
迫害を受けた事、及び與五郎が彼の繩張りを
奪取せんとした事から、流石温厚な彼も遂に仙
臺屋を糾弾すべく單身敵の本懸に乗り込んで男
性的意氣を揚げた。然し夫は羅生門重助の援
依つて事なきを得たが、此事あつて以來五郎
の名聲は恭間に宣傳された。其頃領主は東北四十萬
石の領首松木土佐守は政五郎の名聲を聞き彼を
招致して同家の元締たらんこしたが、義に富む
彼は仙臺屋の立場を考慮して飽までそれを諒じ
た。與五郎は彼を曲解し鬭途を擁して撃たんと